医局だより

愛知県がんセンター病院　副院長兼乳腺科部長
岩田　広治

愛知県がんセンター乳腺科は、1964年の開設から57年、当初の外科（第1外科：頭頸部領域、第２外科：食道外科・肺外科・乳腺外科、第３外科：上下部消化器外科・肝胆膵外科）の1パートから 1988 年に独立しました。初代：吉田穣先生（1988 年～1995年）、2代目：三浦重人先生（1996 年～2001年）、3代目（2002年～現在）として私が部長を務めてきました。当院で手術をした延べ新規乳癌患者数は14,500人を超え、すべてデータベース化され我々の大きな財産です。現在、私を含め7名のスタッフ（男性3名、女性4名）と3名の医員（すべて女性）、4名のレジデント（男性2名で1名は腫瘍内科医、女性2名）で年間400～500名の新規患者の手術と、約500名の再発患者（他院術後再発を含め）を診療しています。

当科は名称が乳腺科のごとく、外科手術だけでなく、診断から周術期・再発薬物療法まで幅広く診療を行っています。同時再建手術（人工物・自家組織）は年間100件程度を形成外科医2名が担当しています。温存術後の放射線治療は寡分割照射を標準として、患者毎に放射線治療科と密な連携の中で実施しています。HBOC診療は当科の臨床遺伝専門医（吉村章代）が中心となり婦人科、リスク評価センター（遺伝専門医・カウンセラー）と協働して月1回のカンファレンスで、患者毎の RRM, RRSO, 同時再建などの適応を決定しています(2020年 RRM：5件)。

当院は都道府県がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院の認定を受け、東海地区のがん診療の中心的存在です。セカンドオピニオン外来には主に東海3県から年間150件程の方が相談に来られ、東海地区の標準治療推進役を担っています。遺伝子パネル検査の出検数は中核拠点病院を含めても全国第２位（2020年12月現在）、エキスパートパネルでは毎週10名以上が検討され、多くの再発乳癌患者も検査を受けています。

当院の特徴はスタッフの出身大学に偏りがなく、レジデントも全国から初期研修・外科専門医研修の後に乳腺専門医を目指して研修に来てくれています。多くの企業治験や臨床研究を実施し、臨床試験の立案から実際までを学ぶことが可能です。最近では新規薬剤の開発に興味のある若手腫瘍内科医もレジデントとして活躍し

医局だより

ています。最大5年間の研修期間に、自分で立案した前向き介入研究を実施して論文化することを最大の目標とし、日々研修に励み、2020年には科全体で 9 本の筆頭英語論文が採択されました。スタッフは皆、ワークライフバランスを重視した働き方改革で家庭と仕事の両立を実現し、夏休みには家族も一緒に1泊で恒例（既に17年継続）の伊勢志摩旅行など全員で楽しんでいます。

患者さんの診療は継続的な担当医は決まりますが、個人よりもチーム（周囲の連携開業医も含めて）で考え実践することを心掛けています。患者さんの生活環境、仕事、目標、希望は多種多様です。患者さんの声に常に耳を傾け、希望する標準治療の全てに対応可能なことはもちろん、先進的な医療を常に提供できる体制を整えています。昨年の第28回日本乳癌学会学術総会ではスタッフ・レジデントから認定看護師まで全員で知恵を絞り、初めてのWEB 開催を計画・運営させていただきました。紙面を借りまして、改めて全国の皆様方の協力に厚く御礼申し上げます。今後も愛知県がんセンターは、日本をそして世界をリードする総合がんセンター（研究所と一体）として、すべての乳癌患者さんに寄り添い最良のがん医療を提供していきたいと考えています。